



(左) 警察が委嘱した「こども110番の家」の表示プレート
(右)「こども110番の家」利用訓練の様子

「こども110番の家」をより身近に

子供の外出の安全性を高めるための日本独自の取り組みとして「こども110番の家」があるのは多くの方がご存知だと思います。子供が危険を感じた時に駆け込める商店や住宅等で、2026年現在、愛知県内には愛知県警察が委嘱した「こども110番の家」が約1万6千件あります。ところで、「こども110番の家」の中には、危険時以外でも、トイレや雨宿りなど身近なニーズへの対応も受け入れているところもあることをご存知でしょうか。これはとても大事なことで、筆者が愛知県警と連携して実施したアンケート調査では、普段から「こども110番の家」に住んでいる人との交流や身近なニーズでの利用経験があれば、子供の安心感や利用意識に繋がるということが分かっています。つまり、普段から身近である「こども110番の家」は、いざというときにも利用しやすい、ということになります。近年では、「こども110番の家」の利用訓練 (<https://nikkankeisatsu.co.jp/news/260130-2.html>) なども行われています。日本独自の取り組みである「こども110番の家」をより身近にするという地域づくりを通じて、子供の安全な外出の機会の維持・促進が期待されます。

【所属機関・連絡先】

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 松尾幸二郎

Tel : 0532-44-6864 E-mail : k-matsuo@ace.tut.ac.jp